浜 松 市 教 育 委 員 会 会 議 次 第

令和６年９月２７日（金）
１４時００分
教 育 委 員 会 室

１　開　会

２　前回会議録の報告及び承認

３　会議録署名人の決定（田中委員、神谷委員）

４　会期の決定

５　議　事

（１）議　案

【議決案件】

第 48 号議案　※非公開

（２）報　告

ア　令和７年度採用浜松市立小中学校教員採用選考試験の結果について　（教職員課）

イ　令和６年度全国学力・学習状況調査「浜松市の結果（概要）」について
（教育センター）

６　閉　会

報告ア

令和7年度採用（令和6年度実施） 浜松市立小・中学校教員採用選考試験結果

教職員課　採用管理担当

（単位：人）※倍率を除く

試験区分・教科		志願者数 A	第1次選考受験者数 B ※2	（うち併願）※1	第1次選考合格者数 C ※2	第2次選考合格者数 D	実質倍率 B／D E
1　小学校教員		264	252	(17)	201	108	2.3
2　中学校教員		351	363	(36)	174	60	6.1
（教科別内訳）	国語	34	36	(6)	24	9	4.0
	社会	62	59	(3)	24	8	7.4
	数学	38	45	(9)	24	8	5.6
	理科	23	27	(4)	23	7	3.9
	音楽	11	12	(2)	11	3	4.0
	美術	7	6	(0)	6	4	1.5
	保健体育	117	116	(7)	26	5	23.2
	技術	7	5	(0)	5	4	1.3
	家庭	9	9	(0)	7	3	3.0
	英語	43	48	(5)	24	9	5.3
小中　計		615	615	(53)	375	168	3.7
3　発達支援推進教員		21	57	(38)	36	3	19.0
（内訳）	小学校	11	37	(27)	26	2	
	中学校	10	20	(11)	10	1	
4　養護教諭		54	52		24	4	13.0
合　計		690	724	(91)	435	175	4.1

※1 「併願」は、第2希望で受験した者の数

※2 B，Cには、併願者及び1次試験免除者を含む

報告イ

令和６年度全国学力・学習状況調査「浜松市の結果（概要）」について

教育センター

１　調査の目的

〇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
〇学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
〇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２　参加人数・参加校数

学　校	対象学年	人　数	参加学校数
小学校	６年	６，４７３人	９７校
中学校	３年	４，７８２人	４９校

＊人数は、当日実施者のみ。調査項目によって違うため最大人数で表示。

３　調査結果

（１）教科に関する調査（教科ごとの平均正答率）※単位は％

【小学校】	国語	算数
全国	67.7	63.4
静岡県	67	62
浜松市	69	63

【中学校】	国語	数学
全国	58.1	52.5
静岡県	59	55
浜松市	60	56

＊４/１８実施値。
＊平均正答率は、文部科学省結果公表数値（都道府県・指定都市は小数点以下第１位を四捨五入した数値）による。

（２）生活習慣や学習環境等に関する質問調査（肯定的に回答した子供の割合）

※単位は％

①「浜松の目指す子供の姿」に関係する調査結果

質問項目	小学校６年生		中学校３年生	
	浜松市（全国比）	前回比	浜松市（全国比）	前回比
自分には、よいところがあると思う	86.6 (+2.5)	▲1.3	86.4 (+3.1)	+4.0
将来の夢や目標をもっている	84.5 (+2.1)	▲0.6	69.1 (+2.8)	+0.6
人の役に立つ人間になりたいと思う	96.2 (+0.3)	▲0.2	96.7 (+1.5)	+1.0
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う	85.3 (+1.8)	+7.7	81.5 (+5.4)	+14.0
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある	92.3 (+0.6)	▲0.3	90.4 (+0.6)	+2.8
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う	93.7 (+3.8)	+0.2	93.3 (+2.9)	+2.9

肯定的に回答した子供の割合が全国に比べて高かった。中学校３年生は、全ての項目で前回結果を上回った。

②「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」に関係する調査結果

質問項目	小学校６年生		中学校３年生	
	浜松市 （全国比）	前回比	浜松市 （全国比）	前回比
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	82.2 (+0.3)	+3.8	81.1 (+0.8)	+2.4
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	87.5 (+1.2)	+2.8	88.9 (+2.8)	+7.3
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている	81.6 (+0.8)	+2.5	78.3 (+0.4)	+12.8
授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思う	83.9 (+0.2)	新規	80.1 (+1.1)	新規

肯定的に回答した子供の割合が全国に比べて高かった。小学校６年生及び中学校３年生は、全ての項目で前回結果を上回った。

また、肯定的に回答している子供の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られた。

③総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳に関係する調査結果

質問項目	小学校６年生		中学校３年生	
	浜松市 （全国比）	前回比	浜松市 （全国比）	前回比
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる	82.5 (+1.2)	+4.8	87.6 (+5.4)	+7.9
学級活動における学級での話合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる	83.9 (+1.4)	+6.9	85.3 (+4.7)	+12.2
道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる	90.0 (+1.8)	+3.2	93.9 (+2.2)	+6.1

肯定的に回答した子供の割合が全国に比べて高かった。小学校６年生及び中学校３年生は、全ての項目で前回結果を上回った。

④「個別最適な学び」と「協働的な学び」に関係する調査結果

質問項目	小学校６年生		中学校３年生	
	浜松市 （全国比）	前回比	浜松市 （全国比）	前回比
授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた	85.9 (+1.6)	新規	83.3 (+2.4)	新規
授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる	92.2 (+0.6)	新規	93.8 (+1.5)	新規

肯定的に回答した子供の割合が全国に比べて高かった。

また、肯定的に回答している子供の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られた。

⑤ＩＣＴを活用した学習状況に関係する調査結果

質問項目	小学校６年生		中学校３年生	
	浜松市 （全国比）	前回比	浜松市 （全国比）	前回比
授業で、ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を、どの程度使用しましたか ※週３回以上と回答した子供の割合	54.3 (▲5.2)	▲2.9	55.4 (▲9.0)	+13.0
学習の中でＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を活用することについて、次のことはあなたにどのくらい当てはまりますか	―	―	―	―
自分のペースで理解しながら学習を進めることができる	88.0 (+2.5)	新規	81.8 (+1.6)	新規
分からないことがあった時に、すぐ調べることができる	92.2 (+0.1)	新規	94.8 (+0.9)	新規
楽しみながら学習を進めることができる	87.7 (+1.7)	新規	84.6 (+2.2)	新規
画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる	90.8 (+1.0)	新規	90.9 (+1.9)	新規
自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる	81.0 (+1.8)	新規	78.7 (+1.0)	新規
友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる	87.7 (+1.6)	新規	88.3 (+2.1)	新規
友達と協力しながら学習を進めることができる	86.8 (▲0.3)	新規	85.2 (±0.0)	新規

前年度までの授業で、ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を週３回以上使用したと回答した子供の割合が全国と比べて低かった。

ＩＣＴ機器を活用することについて、「友達と協力しながら学習を進めることができる」という設問を除き、肯定的に回答した子供の割合が全国に比べて高かった。

【資料】　教科概要

小学校国語

○小学校では、「話すこと」、「書くこと」において、話題・題材を設定する際に、集めた材料を分類することについて、安定した力が身に付いていた。

●小学校では、自分の考えを形成する学習過程において、事実と感想、意見とを明確に区別したり、必要な情報を十分に取り上げたりすることに課題がある。

小国課題　2二　目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること

小国問題へ

正答率　浜松　58.3%　全国　56.6%　無解答率　浜松　5.7%　全国　4.9%

問題の概要

【高山さんの文章】に、**【高山さんの取材メモ】**をもとにして考えた「たてわり遊び」のよさを高山さんの意図にしたがって書く。

〈条件〉
○「たてわり遊び」のよさについて考えたことを書く。
○**【高山さんの取材メモ】**の下級生に聞いたことから言葉や文を取り上げて書く。
○（略）

【高山さんの取材メモ】

「たてわり遊び」について
６年生がくふうしていること
○遊びたいことを下級生に聞く
○ルールをくふうする　（略）
下級生に聞いたこと
○１年生　お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった
○３年生　好きな遊びや新しい友達が増えた
○４年生　みんなが楽しそうでうれしかった

【高山さんの考え】

「たてわり遊び」と「運動会」は、どちらも１年生から６年生までが同じ「たてわりはん」で活動していて、みんなが仲良しになる。このことが学校の一番のよさだと思うから、文章に書こう。

正答例

「お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった」という１年生や、「みんなが楽しそうでうれしかった」という４年生がいます。このように、「たてわり遊び」のよいところは、学年をこえた交流ができ、みんなが仲良しになるところだと思います。

誤答例

その結果、「お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった」という１年生や、「好きな遊びや新しい友達が増えた」という３年生、「みんなが楽しそうでうれしかった」という４年生がいました。
※たてわり遊びのよさについて触れていない。

誤答例の分析と課題

記述の条件のうち**【高山さんの取材メモ】**から「下級生に聞いたこと」を取り上げて事実を書けているが、もう一つの条件「たてわり遊び」のよさについて考えたことが書けていない。「たてわり遊び」のよさは、高山さんが文章を書こうとした目的や意図に当てはまる。その他の資料からその目的や意図を適切に取り出し、高山さんの感想、意見として書くことができなかった。

授業改善のポイント

子供が、書いた文章を客観的に捉えられるよう、目的を明確にした上で、互いの文章のよさを見付けながら読み合う場面を設ける。その際、自分が伝えたいことは何かを意識しながら、自分の意見を書くことができているか、それを裏付ける事実が取り上げられているか等、吟味する。さらに、読み合った後には、文章の修正の方向性を見いだし、実際に書き直す時間を確保する。

「令和６年度【小学校国語】報告書」
大問２　授業アイディア例参照

中学校国語

○中学校では、どの領域でも安定した力が身に付いており、記述式の問題で良好な結果が見られた。
●中学校では、主張と例示等の関係について捉えたり、必要な情報を十分に取り上げたりすることに課題がある。

中国課題　2四　目的に応じて必要な情報に着目して要約すること

正答率　浜松　44.9%　全国　42.6%　無解答率　浜松　10.0%　全国　8.4%

中国問題へ

問題の概要　園池公毅『植物の形には意味がある』を読み、着目する内容を一つ選んで要約する。

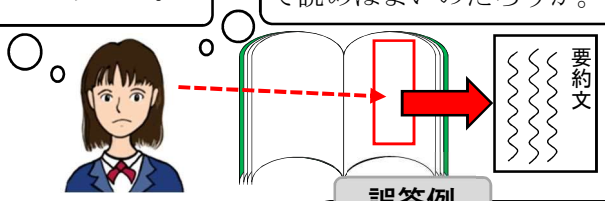
園池公毅『植物の形には意味がある』（抜粋）を読み、次のア、イから着目する内容を一つ選んで（どちらを選んでもかまいません。）、要約しなさい。

ア　筆者が、葉の形を表す言葉をどのようなグループに分け、各グループにどのような特徴があると述べているかについて。
イ　筆者が、数学や物理学などと生物学とでは、学問としてどのような違いがあると述べているかについて。

アを選択した場合

本文に書かれていることを理解するための要約だから、筆者の伝えたいことを正確に要約することが大切だな。

筆者が、葉の形を表す言葉をどのようなグループに分け、各グループにどのような特徴があると述べているかに着目して要約しよう。文章のどの部分に着目して読めばよいのだろうか。



正答例

〈アを選択して〉
葉の形を表す言葉を、二次元的な形容のグループと三次元的な形容のグループに分け、前者には多様性、後者には共通性という特徴があると述べている。

誤答例

〈アを選択して〉
筆者は、葉の形を表す言葉を、二次元的な形容のグループと三次元的な形容のグループに分けている
※どのような特徴かという必要な情報を取り上げていない。

誤答例の分析と課題

着目する内容についてまとめて書くことはできているが、本文の内容を正確に捉えて要約することができていない。目的を踏まえ、必要な情報を十分に取り上げているか、要約の内容と本文の内容とにずれがないかを吟味することができていない。

授業改善のポイント

目的を明確にした上で、着目する内容について要約して伝える活動を取り入れる。その際、目的や必要に応じて、要約文の内容や分量、方法が異なることについて指導する。また、書いた要約文が適切であるかどうか、以下の視点を基に吟味する場面を設ける。
・必要な情報を十分取り上げているか
・元の文章と隔たりはないか　　等
さらに、その対話を受けて、自分の要約文を再検討する場を設ける。

「令和６年度【中学校国語】報告書」
大問２　授業アイディア例参照

小学校算数

〇数量の関係を□を用いた式に表すことについて、基礎的・基本的な力が身に付いていた。

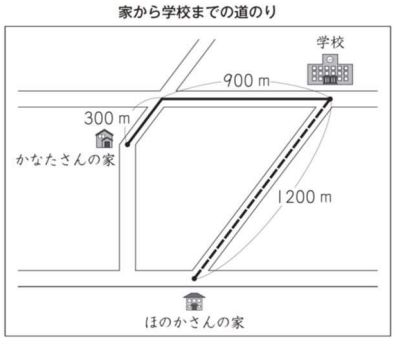
●速さについての理解や判断した理由を説明すること、図形の構成要素の位置関係の理解に課題が見られた。

小算課題　4（３）　道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述すること

小算問題へ

正答率　浜松 28.7%　全国 31.0%　無解答率　浜松 3.2%　全国 2.4%

問題の概要　家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いか判断し、そのわけをかく。



かなたさんとほのかさんは、それぞれ家から学校まで歩いて行きました。

家から学校までの道のりは、左の図のとおりです。

家から学校まで、かなたさんは２０分間、ほのかさんは２４分間かかりました。

それぞれの家から学校までの歩く速さを比べると、かなたさんとほのかさんのどちらが速いですか。

また、選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

正答例

〈かなたさんを選択して〉

かなたさんの家から学校までの道のりは、900+300=1200 で、1200m です。かなたさんとほのかさんが歩いた道のりは、1200m で同じです。かかった時間は、かなたさんのほうが短いです。道のりが同じとき、時間が短いほど速さが速いので、かなさたんのほうが速いです。

考えられる誤答例

〈かなたさんを選択して〉

かなたさんとほのかさんが歩いた道のりはどちらも同じだからです。

※かかった時間が短い方が速いことに触れていない。

〈かなたさんを選択して〉

かなたさんのほうがほのかさんよりかかった時間が短いからです。

※歩いた道のりが同じであることに触れていない。

誤答例の分析と課題

二人のどちらが速いかを判断することはできているが、道のりと時間の両方に触れて、適切に表現することができていない。

授業改善のポイント

歩いた道のりが同じ場合には、かかった時間が短いほど速いといえることや、歩いた時間が同じ場合には、歩いた道のりが長い方が速いといえることを、それぞれの場合について、子供が具体的にイメージできる場面を取り上げながら指導する。また、子供が考えを表現した後、理由が適切に述べられている表現例を示すなどして、子供が、自分が表現したことと適切な表現とを比べる活動を設定し、正しく表現できるように指導する。

数学的な表現を用いて説明し伝え合う活動の際には、考えを伝え合うだけでなく、適切に表現できているか、過不足なく表現できているかなどを振り返り、表現を修正・改善する活動を併せて行うことが必要である。

「令和６年度【小学校算数】報告書」

中学校数学

○どの領域においても、安定した力が身に付いていた。

●事柄が成り立つ理由を説明する力や問題解決の方法を数学的に説明する力を一層伸ばす必要がある。

中数課題　8（２）　事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること

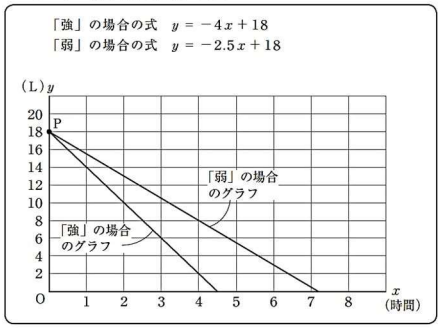
正答率　浜松 17.3%　全国 17.1%　無解答率　浜松 17.9%　全国 16.4%

中数問題へ

問題の概要

１８Ｌの灯油を使い切るまでの「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を式やグラフを用いて説明する。

ストーブの使用時間と灯油の残量



左のストーブの使用時間と灯油の残量から、ストーブを使用し始めてから１８Ｌの灯油を使い切るまでの「強」の場合と「弱」の場合の使用時間の違いが何時間になるかを考えます。下のア、イのどちらかを選び、それを用いて「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を説明しなさい。

また、選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

ア、イのどちらを選んで説明しても構いません。また、実際に何時間かを求める必要はありません。

ア　「強」の場合の式 $y=-4x+18$ と「弱」の場合の式 $y=-2.5x+18$

イ　「強」の場合のグラフと「弱」の場合のグラフ

正答例

〈アを選択して〉

「強」の場合の式と「弱」の場合の式について、それぞれの式に $y=0$ を代入し、x の値の差を求める。

考えられる誤答例

〈アを選択して〉

「強」の場合と「弱」の場合のそれぞれの式に、$y=0$ を代入する。

※ x の値の差を求めることに触れていない。

〈アを選択して〉

「強」の場合の式と「弱」の場合の式について、x の値の差を求める。

※ $y=0$ を代入することに触れていない。

〈イを選択して〉

「強」場合のグラフと「弱」の場合のグラフについて、y 座標が 0 の点を調べる。

※ y 座標が０の場合の x の値の差、または、２点間の距離を読み取ることに触れていない。

誤答例の分析と課題

選択した方法に対して、解答の記述が不十分であり、必要な事柄を全て挙げて、記述することができていない。

授業改善のポイント

本問を授業で活用し、使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める際に、それぞれのグラフのどの点を読み取ればよいか考察し、子供がグラフの特徴を正しく読み取ることができるように指導する。また、式やグラフを用いて説明する時間を設定し、式やグラフなどを関連付けながら指導する。

数学的な表現を用いて説明し伝え合う活動の際には、数、式、表、グラフなど様々な数学的な表現の中から、目的に応じて、数学的な表現を選択する機会を設けたり、相互に関連付けたりしながら説明できるようにする。また、表現したことを振り返り、表現を修正・改善する活動を併せて行うことが必要である。

「令和６年度【中学校数学】報告書」
大問８　授業アイデア例参照